

ヨハネス・クトロヴァッツ教授 マスタークラス

ウィーン国立音楽大学教授のヨハネス・クトロヴァッツ(Johannes Kutrowatz)氏はオーストリア・リスト協会の会長を務める一方、弟エデゥアルトと組むピアノデュオは世界各国で公演を続けており、日本でも1995年から百数十回に及ぶコンサートを成功させています。私は数年前にクトロヴァッツ兄弟と知り合い、彼らが音楽監督を務める山中湖国際音楽祭”Klangsommer”にも訪れましたが、演奏の完成度や表現力の高さは然ることながら、演奏家としての圧倒的なオーラ、終演後に聴衆と気さくに会話をする懐の深さを感じることができました。

ヨハネスを洗足学園音楽大学にお呼びして、2018年9月25日(火)にマスタークラスを開講しました。学部1年生から大学院2年生までの計6名が受講しましたが、演奏の解釈や技術はもちろんのこと、それ以上に各学生との対話をとおして、演奏家としての「構え」や「心のあり方」について話されることが多く、昨年以上にメッセージ性の強い内容でした。情熱的に話しかける姿は、彼の演奏そのものを見ているようで、私も個人的に大変感銘を受けました。

より上手に仕上げるのがレッスンの本来の目的ではなく、大学という高等教育機関に求められていることは、専門家としての「姿」を育てていくことにほかなりません。このようなマスタークラスをきっかけに、すべての学生が音楽に携わることを考え、より積極的に学びたいと自発的に模索することを望みます。さらには海外から招聘した教授のレッスンを受けることに終始せず、語学のスキル(コミュニケーション能力)を磨き、海外を視野に入れた活動の場を目指していただきたい。そのためにも、私たちは本学のすばらしい環境と機会をさらに促して、グローバル化に対応した洞察力と柔軟性に富んだ指導が求められるように思います。

このマスタークラスにあたり、多大なご尽力をくださった本学ならびに日本青年館、ドイツ語通訳を担当してくださったピアニストの尾形大介氏に心より感謝申し上げます。

【文責：赤松林太郎】



